



『ふたたび、中村哲さんのこと』

ちいろば会理事 木ノ脇 悦郎

「ちいろばだより」232号(2020年2月7日発行)に、その前年暮れに射殺された中村哲さんに寄せてやりきれない気持ちを表した文章を掲載させていただきました。その後、中村さんの書いた書物や中村さんに関する書物がいくつも出版されています。今日は2021年10月にNHK出版社から出版された「わたしは『セロ弾きのゴーシュ』、中村哲が本当に伝えたかったこと」について、その豊かなメッセージを皆さんと共有しようと思います。この本は1996年から2009年にかけてNHKの「ラジオ深夜便」という番組で放送された内容をそのまま文章にして中村医師がアフガニスタンでの様々な活動を通して伝えたかったことを伝えています。前の原稿に詳しく書きましたが、中村さんは医師として派遣されたアフガニスタンで、一見医師としての働きとは関係ないように見える井戸掘りや灌漑水路建設、そして畑造りにまで活動の幅を広げていきました。しかも、ここが大事なことなのですが、その工事の進め方は決して近代的な機械や技術に頼るのではなく、古くからある知恵を用いて人間の手によっていつでも改修が可能な方法を用いているのです。中には江戸時代から日本で用いられた川の堰造りの技術も取り入れられています。それはこの事業が現地の人々によっていつまでも続けられるようにという願いを持った中村さんの想いを映し出しています。外国の援助は、世界の注目が集まっている間は続くけれど、注目が減ってくるとその段階で打ち切られたり、残された機械を現地の人には使えなかったり、故障しても修理の方法が分からず放置されていくという例を中村さんは多く知っていたからなのです。

では、中村さんはどうして自分を「セロ弾きのゴーシュ」に例えたのでしょうか。「セロ弾きのゴーシュ」は宮沢賢治という明治時代の童話作家の作品で、中村さんはその作品を大変気に入っていたようです。オーケストラでセロ(チェロ)を弾いていたゴーシュさんは、上手な演奏家とはとても言えない人でしたから、家に帰ると一生懸命練習をしていたのです。ところが、ゴーシュさんの家の周りには様々な動物たちが、子供の病気を治すためにチェロの演奏を頼んだり、様々な願い事を持ち込んで練習どころではない状態が続く、ゴーシュさんはイライラしながらも、動物たちの願いを聞き届けてあげるのです。とうとう演奏会の日がやってきて、ゴーシュは自信がないまま演奏をし、また指揮者に叱られるのではないかとびくびくします。ところが、指揮者はゴーシュの演奏が大変良かったと褒め、アンコール曲の演奏をゴーシュに任せてしまうのです。

ゴーシュは考えます。そうか、邪魔だと思っていた動物たちの願いを聞き届けているうちに、それが練習になっていつの間にか演奏が上手くなっていたのだと気づくのです。中村哲さんは、自分のしていることもゴーシュと同じように関係のない余分なことをしているように見えるけれども、実はその一つ一つのことが、アフガニスタンの現地の人々にとって大事なことであり、また自分にとっても人々のために働く範囲を広げてくれたのだと気づいたというのです。私達も、そのような気持ちで毎日の業に励みたいものですね。

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

『信頼関係』を築く

ちいろば会事務長 和田 泰子

昨年1年を振り返り職員の退職数が例年になく多かったことに肩を落としてしまいます。

福祉業界はこれまでにない人材不足で、求職者にとって門戸が広く開かれた状態が続いています。ただ、求職者の実態を見てみると、障害者のお世話くらいならできるだろうと安易な考えや全くイメージを持つことなく応募される方も多く、実際に働き始めて「こんなはずではなかった」「自分には無理」等の理由から数週間で退職していく職員もいます。正直、障害者支援を甘く見られていることに怒りを感じると同時に、新しい職員が入職してくれたと喜んでいる利用者や、少しでも早く仕事を覚えてもらうために関わっている職員を馬鹿にされた気持ちにもなります。しかし、事業所はどれだけ職員の入退職が続いても事業を継続しなければなりません。だからこそ利用者、その家族、職員集団の中で信頼関係を築いていくことがとても重要だと思います。

入職して一ヶ月くらい経過した職員は、「利用者さんから少し信頼してもらえるようになった」と感じることもあるかもしれません。もちろん当該の職員は本当にそう感じていると思います。しかし、これまで職員の入退職の度に利用者の様子を見てきた私たちは利用者あるあるだなと感じます。自ら関係をもてる利用者は新しい職員に対して甘えた行動をとります。また、支援が多く必要となる利用者は自分で出来ることも職員の手を取りやってみようとしています。これらの行動は信頼からきているのでしょうか。本来信頼関係とは対人関係を表すもので、相互の関係、信頼し合う度合いがその信頼関係の程度を示すと考えられるので、それなりに経験のある職員にはこれらの行動が一概に信頼関係の上にあるとは考えにくいと理解できるからこそ日々の支援に悩んでいるのではないのでしょうか。私もその中の一人です。利用者(の行動)を理解できるようになってきたかなと言えるくらいです。

そして、信頼は得にくく失いやすいものだとも言われます。信頼関係を築くには時間がかかる反面、信頼の崩壊はあっという間に起こるということです。そのことを十分に理解して、私が信頼関係を築くために大切にしていることが幾つかあります。まず、自分と同じように相手を大切にすることを大前提として、相手に対して関心を持つ、自分の全てを相手に知ってもらい、相手の大切にしているものを自分も大切にすること、そしてコミュニケーションをとることです。これらを実践できれば、組織との信頼関係、利用者・家族との信頼関係、職員との信頼関係を築けるのではないのでしょうか。

特に、日々のコミュニケーションが上手くできれば仕事や支援における悩みも解消することができるとし、利用者との信頼関係にも繋がります。利用者との信頼関係は支援の成否を左右し、支援する職員集団相互の信頼関係もまた支援の質を高めるために不可欠となります。職員はそれらの相互作用によって、仕事に対する気持ちにも変化が出てくるのではないのでしょうか。まずは、職員集団として強固な信頼関係を築き、支援の質を高める努力をしてみませんか。

職員として、父として

ちいろば園職員 笠井 草太

私はちいろば会に入職して10月で5年が経ちました。この5年の間に結婚し、今では2歳の子供がいます。私自身、ちいろば会で働くなかで学んできたことが家庭にも大きく影響していると、最近はずとよく感じます。法人研修で部落史や在日朝鮮人について等、障害者支援の枠を超えてさまざまな勉強の機会をいただき、「知る」ことの大切さを学んだり、相手の思いに共感し尊重することや、こちらの思いを相手に伝える際に「言ってもわからないだろう」と諦めず、時間をかけて向き合ったり、違う視点からアプローチしたり等、さまざまな事を上司や先輩から勉強させてもらい、少しずつですが組織の一員として成長させていただいています。

そして、それがそのまま父親としての成長にも大きく影響を受けているように思います。もちろん、「子育て」と「障害者支援」は別物で、等しく捉えているわけではありません。息子と向き合うとき、ただ叱って言うことを聞かせるのではなく、相手の思いを聞いたうえでこちらの思いも伝え、納得して自分の意志で動いてもらうよう意識するようになったのは、ちいろば会で働いているからこそだと思います。もし自分が別の仕事をしていたら、今とは違った父親になっていたかもしれません。

また、必ずしもではありませんが、父親になったからこそ今までわからなかった「親の思い」がわかるようになり、逆に父親になったことが仕事にも影響を与えているように感じます。利用者さんの身だしなみや健康状態、怪我がの有無に気を配るのは職員として当然しなければならぬことですが、父親になって特に気を付けるようになったように思います。もし自分の子供が傷を負って帰ってきたり、顔色が悪い状態で帰ってきて原因がわかりません、知りませんでした。と言われたら心配になりますし、そこに対して不信感を持ってしまおうでしょう。

この5年間で私自身、仕事や育児への向き合い方が大きく変わりました。まだまだ職場においても家庭においても未熟な部分が多々あり、課題は山のようにありますが、ちいろば会に採用いただいたこと、結婚したことで、父親になったことひとつひとつが私にとってありがたいことで、これからも職員として、父として成長できるように頑張ります。



自分達の活動は自分達で伝える

ちいろば園職員 磯道 香織

ちいろば園には例年多くの方々^{えん れいねんおお かたがた わたし さぎょうかつどう けんがく き くだ なか おな ちょうない}が 私たちの作業活動の見学に来て下さいます。中でも同じ町内にある
 小学校三年生の子供達は毎年来てくれます。私の所属している食品製菓グループ(焼き菓子・グループ
 ホームの食事作りを担当)では、見学の日には朝の会から「見られるの緊張するわあ〜」「かっこいいと
 ころ見てもらいたい!」と、皆で心をワクワクドキドキさせています。

ちいろば園では現在“利用者主体の事業所”を目指しており、「自分達の活動は自分達で伝えたい!」とい
 う利用者さんの想いのもと、「みんなが主役!」を目標に日々活動しています。そこで、この見学ではこ
 の想いを実現させるために、そして障害があっても働ける事を知ってもらう為にはどのような工夫をし
 たら良いのかを考えました。

当日の小学生の誘導はちいろば園にある当事者活動のみんなの会の役員さんのみで行いました。見学
 をする場所の順番、名前、ピクトグラムが印刷されたカードがあることで、自信を持って引率することが
 可能となりました。私達食品製菓グループでも床には進む方向へ矢印をつけ、止まる場所にはピクトグ
 ラムを用いて、誘導係の利用者さんの案内がスムーズに行えるように工夫をしました。さらに、障害が
 あっても働ける事、たくさん事が出来る力をもっている事を知ってもらうためには、普段の働いて
 いる姿を見てもらう事が一番だと考え、クッキー作りの実演を行う事にしました。まず、見学しやすい
 位置へ作業台を移動させ、利用者さんが説明を行いやすく、聞き手にも分かりやすくなるように机に番
 号を表記し、対象が小学生という事を考慮した環境設定を行いました。そして、絞り袋を使用する
 クッキー・丸めた生地を押さえて作るクッキー、これらを作るにはそれぞれ必要な支援ツールがあり、そ
 れを説明し実演することで子供達からは「わあー!!すごーい!!」と歓声が上がりました。その時
 の利用者さんの誇らしげな顔が見られた時に、合理的配慮の大切さを改めて感じました。今までの
 口頭だけの説明では伝わりにくかった部分もあり、利用者さんももどかしく感じていた様子でした。

また、説明する人だけが注目を浴びてきましたが、行程分析をし今回は全ての利用者さんが注目される
 場面を作ることができたので、一人ではなく皆の誇らしげな顔、
 自己肯定感を持った姿を見ることができ、「みんなが主役」と
 なって「自分達の活動は自分達で伝える」事に一歩近づいたと
 思います。

これからも目標に向かって、利用者さんと共に頑張っていき
 たいと思います。



グループホーム内の掃除の支援、衛生管理について

グループホーム職員 岩崎真滋



掃除や衛生管理は人の健康維持にとって、とても大切な

ことです。アレルギーを持っている利用者さんもいます。

掃除で汚れやほこりを取り除き清潔に保ちます。利用者さん

は主体的に掃除機、コロコロ、ドライ・ウエットのワイパー

シート、ぞうきん等を使って隅々まで丁寧に綺麗な状態を保つため日々努力されています。ゴミ

出しの日には利用者さんは当番制でゴミ置き場へ出し、鳥獣よけネットもかけます。ゴミの分別

もおこなっています。掃除が終わった後は、ほこり一つ落ちていません。頭が下がります。洗濯物

も、夕方帰宅時やお風呂の時、朝はパジャマを出してくれたり、干してくれたりと衣類、寝具類にも

気をつけています。乾燥器や洗濯機の取り扱いにも挑戦されている方もいます。

衛生面では、台所、お風呂、トイレ、洗面場など菌が繁殖しやすい水まわりの場所を中心に

掃除、消毒を日々おこなっています。また、手洗い、うがい、手指消毒、コロナもあるので検温と

マスクの着用等も一緒に実施しています。

食品衛生にも「清潔」「温度」「迅速」といった食中毒の防止の基本を踏まえながらの支援を

しています。

これからも利用者さんが、主体的に掃除に取り組んで、

より良い衛生状態を保ちながら生活を送れるように支援

をしていきたいです。



— ぼくも わたしも みんなが主役 — しゅやく

- 質問① しつもん 名前なまえと年齢ねんれいは？
 質問② しつもん 家族かぞくにまつわるエピソードは？
 質問③ しつもん 学校時代がっこうじだいのエピソード、または就労中しゅうろうちゅうのエピソードは？
 質問④ しつもん 最近さいきん気きになっていること、興味きょうみがあることは？

① うめの れいこ 梅野 玲子です。41歳さいです。
 ② へいじつ 平日はグループホーム「すみれ荘そう」で暮らし、
しゅうまつ りょうしん 週末は、両親じたくのいる自宅かえに帰ります。
わたし ちゅうがっこう 私が中学校ときの時、父親ちちおやの単身赴任先たんしんぷにんさきの金沢かなざわまで、兄あにが車くるまを運うんてん転てんして一緒いっしょに行きました。千里浜ちりはまなぎさドライブウェイかなざわし（金沢市）で、
 バーベキューをしたのが楽しい思い出です。
 ③ いずみおかしょうがっこう 泉丘小学校おおさかふとよなかし（大阪府豊中市）時代じだいが楽しかったです。
ともだち いえ 友達あそがよく家に遊びあそに来てくれていました。誕生日会たんじょうびかいの日は、家いえの中なかが友達ともだちでいっぱいになりました。友達ともだちが帰かえった後あと、私わたしが生まうれた時ときにプレゼントでもらった金髪きんぱつの人形にんぎょうの髪かみが散髪さんぱつされていて、びっくりしました！
にんぎょう いま その人形にんぎょうは今いまでも、グループホーム「すみれ荘そう」の私わたしの部屋へやに飾かざって、大切にしています。
 ④ ことし 今年ことし、ちいろば旅行りょこうや外出レクリエーションがいしゅつがあるかないかが気きになっています。
さいきん りくじょうじえいたい 最近さいきん、陸上自衛隊うたひめ歌姫つぐみ 鵜まい真衣うたごえさんの歌声うたごえが好きで、
 ユーチューブでよく聞いています。



① いちと かな 井本 香菜 35歳さい
 ② しょうがっこう 小学校ときの時、お母さんかあが亡なくなってお父さんとうと、おばと、
おじいちゃんとおじいちゃんくと暮わたくしらしていました。私わたしはまだ幼おさなかったので
かあ お母さんかあがいないのはつらかったです。
ねん 2009年ねんからちいろば園えんのグループホームで暮くらすようになり、
いま 今いまはユイマールIくにひとりくで暮くらしています。
 ④ むかし 昔むかしはひとりで天王寺てんのうじに行いって遊あそんだり、ひとりで出掛けるでかのが好きすきで
 した。
さいきん だいす 最近さいきんは大好きだいすな嵐あらしの松本潤まつもとじゅんがで出でているドラマ「99.9」にはままって
み 観みていました。1番ばん好きすきなは桜井翔さくらいしょうです。
えん まいにちき ちゃんと、ちいろば園えんに毎日まいにち来て、工賃ごうちんをためて、お洒落しゃれのためためにお金かねを
つか 使つかいたいです。ひとりで出掛けるでか「99.9」の映画えいがを観みに行いきたいです。

クリスマス礼拝・パーティの報告

ちいろば園職員 井上啓樹

今年も恒例のクリスマス礼拝・パーティが12月23日に行われました。礼拝を通じてクリスマスの意味を確認し喜びを分かちあう。パーティで非日常を楽しむ。西大和教会や愛の園幼稚園を母体とするちいろば園にとって重要な行事です。

新型コロナウイルス感染予防の為、2021年ちいろば旅行と外出レクリエーションどちらも行けませんでした。クリスマス会の開催も危ぶまれましたが、そんな今だからこそ「非日常の楽しみ」を感じられる機会が必要ということで感染予防対策を最優先したうえで開催が決まりました。

密集を避けるため参加者を二つの会場に分けて礼拝・食事・ゲームを行ったのでクリスマス会特有の一緒に祈って一緒に笑う一体感まで二分された気がして寂しいと感じましたが、映像の活用など新しくチャレンジできたと手応えを感じる部分もありました。

礼拝では前もって録画した聖書の朗読や大澤牧師のお話を使用しました。初めての試みで不安もありましたがどちらの会場でも讃美歌を歌い祈ることができていたと思います。



パーティは、みんなの会のみなさんのおもしろい乾杯で始まり各作業グループで考えたゲームも映像や放送で進行し別々の会場でもみんな楽しめる内容になっていました。「そっちの会場でウケた？」という会話も新鮮でした。さいごはみんな集まり外へ出てクリスマスソングメドレーを歌って幕を閉じました。来年の世の中の状況がどうなっているのかわかりませんが今回のように工夫をして季節の節目に行われる行事を守っていきたいと思います。



★ 後援会費・ちいろばだより年間購読料 (2021年10月1日～2021年11月30日)

篠原範子、文新善、梶川虔二、大賀太、松藤みどり、ななつぼし、吉岡由里子、田中勲、
富田忠一、藤澤信弘・ゆき子、藤澤信也

以上 敬称は略させていただきます

※ ちいろばだよりの年間購読料は、500円/年です。

～グループホーム再編に反対する緊急署名へのご協力ありがとうございました～

ちいろばだより前号(243号)でみなさんにご協力をお願いした、「グループホーム再編に反対する緊急署名」については、電子署名を含め5万筆を超すみなさんからの協力をいただき、昨年11月24日、ピープルファーストの当事者を含め緊急行動ネットワークの代表から厚生労働省へ提出しました。

その効果もあり、厚生労働省は年内の拙速な取りまとめを諦め、社会保障審議会での議論も含め6月以降に総合支援法の改正案に今後のグループホームのあり方について盛り込むことになるようです。今回の反対行動で若干の時間的猶予はできたものの、厚生労働省は何としても“通過型”グループホームの類型化を盛り込みたい意向に変化はないようです。

今回のグループホームの再編はグループホームに留まらず、今後の障害者施策全般の合理化にも繋がる可能性は否定できません。この機に当事者の声を無視した制度改正や合理性を優先するような施策展開を絶対に許さないという障害当事者やわたしたちの強い意志を厚生労働省に示すことが重要です。今後も引き続き、反対の声をあげていきます。

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会 年6回 頒価 50円
連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14
TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924
発行人／ 関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F